

未来へつなぐ 子どもと学ぶ

sign

サイン

No. 9



特集

子どもたちの挑戦が始まる。

社会に学ぶ「14歳の挑戦」



味噌の袋詰め作業や、お会計に奮闘しています。

中学二年生が五日間、学校の外で職場体験をする「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」。

堀川中学校では、竹脇校長が「この体験を通して、働くことの大変さを体感するとともに、家族や周りで支えてくれる人々のありがたさを感じてほしい。」と生徒たちを送り出しました。

体験先として堀川小泉町の味噌商店を選んだ生徒は「やったことのない仕事をするのは楽しい。」と話し、味噌を袋に詰めたり、レジを使って来店者の会計対応をしました。

今泉の服飾店の仕事にあたった生徒は「在庫の確認や服を畳む作業が、思っていたよりも大変だった。」と驚いた様子。やり方を教わりながら、店内の商品を丁寧に整えました。

体験先の従業員は、「後輩に仕事を教える練習になるので、私たちにとてもよい機会となっている。また、子どもたちがいる間は、お店の雰囲気がいぎやかになり嬉しい。」と顔をほころばせました。

生徒たちが、この五日間の挑戦で学び、感じたことは、将来の夢に向けた第一歩となるはずです。

う
ぎ
s
No.9
サイン
未来へつなぐ 子どもと学ぶ

最高の自分にチャレンジ!

九月十三日に富山県総合運動公園陸上競技場において、第十二回富山市チャレンジ陸上記録会が開催されました。この日は、富山市立の全小学校の六年生約三千人が一堂に会し、「最高の自分にチャレンジ」を合言葉に五十メートル走、ソフトボール投げ、走り幅跳びの三種目に臨みました。子どもたちは、この記録会で自己最高記録を出すためにこれまで練習を重ねてきました。

強い日差しにとっても広い陸上競技場、初めてのタータン。ほかの学校の友達に囲まれ、これまで練習してきた学校とは何もかも違う環境にもかかわらず、真剣な表情で挑戦する子どもたち。まさに「最高の自分にチャレンジ」する姿がそこにはありました。

宮口教育長からは「自分の可能性を発見するとともに、仲間のよさを見つけ、それを生かして、よりよく自分を磨き続けてください。」と激励の言葉が贈られました。



コーディネートを考えたり、入荷した商品を整える生徒たち。

教えて！ いするぎ先生

◆★● 学びに必要な体験 ●★◆

パリオリンピック・パラリンピックから

多くの感動を生んだパリオリンピック・パラリンピック。幼児は、心が動いた場面をすぐに自分たちの遊びに取り込んで楽しめますが、小中学生はどの様に楽しんだのでしょうか。私は「ルールへの対応力」が気になりました。様々な競技で、数年ごとのルール変更や大会ルールの設定が行われています。また、ルールの判定基準が曖昧なことも話題になりました。そのような環境の中で、競技者は自らのスキルを持続的に磨くと同時に、新たなルールに対応したスキルを見出すことで、成果をあげていきます。粘り強く取り組む力と柔軟に適應する力の両者を必要としている点に、現在の教育との共通性を感じました。

予測困難な時代に生きる力

現在の学校教育は、「VUCA(変化が大きく予測困難)の時代に生きる力」の育成を目的としています。環境の変化に対応する柔軟性や適應力とともに、新しいアイデアを生み出す創造力や問題解決力、多様な文化・社会的背景を持つ人々と協力するコミュニケーション力、そしてデジタルツールを使いこなすスキルなどが重要とされ、授業の中で展開されています。

幼児教育では、「多様な環境に自ら関わり、心が動くこと」「試行錯誤しながら友達と共通の目的を達成していくこと」を、遊びの中で展開し、これからの時代に必要な力を育てています。「いいこと思いついた」と自信満々に話す姿、悔しさや悲しさを表現し、時にはケンカもしながら仲間と楽しく遊ぶ姿に、確かな生きる力を感じ、子ども自身も充実感を味わいます。

小学校以降に必要な体験

小学校以降では「遊び」が「教科学習」となり、教科のねらいにそった関心をクラスの友達と共有して学ぶこととなります。自由度が減り、思考や行動に必要な知識を学ぶ内容が増えるため、学ぶことに苦手意識を持つ子どもが少しずつ増えていきます。年齢とともに自己を客観視する力が高まるため、他者との比較から自信をなくしたり、他者の気持ちを考えすぎてコミュニケーションが表面的になったりすることもあります。このような時期に必要なこととして、まずは、自分の思いや考えを表出すること。正解を述べるのではなく、自分の考えをもつことが重要です。次に、学習テーマに関する情報を集めること。他者の意見を聞いたり、メディア等の情報を活用したりします。これらは、知識が生活課題につながることで、課題解決は多様な意見から導かれることに気付く体験となります。そしてこの体験こそ、現代に必要な力を育むのだと考えます。



石動 瑞代

富山市教育委員
富山短期大学幼児教育学科教授

学 校 再 編 新 聞

浜黒崎、大広田小 統合に合意

浜黒崎・大広田校区の地域住民や小学校の保護者らでつくる「浜黒崎小学校・大広田小学校統合検討協議会」は9月24日、第3回協議会を開き、令和8年4月1日に浜黒崎小を大広田小に統合する案に正式に合意した。浜黒崎小学校区は本協議会の前段となる「あり方協議会」を令和5年7月6日に立ち上げ、統合の検討を進めてきた。統合後の校名は大広田小で、校舎は同校のものを継続して利用する。



統合に向けて話を進める委員

統合の時期は

令和8年4月

統合にあたっては、浜黒崎小学校区の児童のためのスクールバスを運行する。そのほか、市内では、音川、古沢、池多、老田の4小学校区それぞれで「あり方協議会」が立ち上がり、再編の方向性について意見を交わしている。



◀ YouTube やってます!

signへのご意見・ご感想はこちらからお願いいたします ▶

